

自然観察 NOW

NO.88

野幌森林公園自然情報

発行：2025年6月5日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



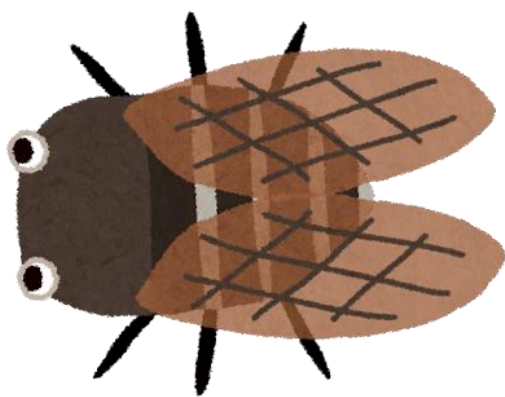
セミ

森から「ミヨーイン・ケケケケケケケ・・・・・・」と聞こえてくる鳴き声の正体をご存じですか？

「ミヨーイン・ケケケケケケケ・・・・・・」は聞きなしと言って、鳴き声を人の言葉や文字に置き換えて覚えやすくしたものです。この鳴き声の正体は「エゾハルゼミ」です。一匹が鳴き出すとほかのセミもつられて鳴き始めます。大体気温が21℃になると鳴き始めると言われています。

エゾハルゼミの説明の前に、セミについて説明します。

セミ（蟬・蜚）は、カメムシ目（半翅目）・頸吻亜目・セミ上科（Cicadoidea）に分類される昆虫の総称。「鳴く昆虫」の一つとして知られています。ただし、鳴くのは成虫のオスだけであり、メスは鳴きません。成虫の体は、前後に細長い筒型で、頑丈な脚、長い口吻、発達した翅などが特徴であり、一方、触角は短い毛髪状であり目立ちません。翅は前翅が大きく、休息する際は体の上面に屋根状にたたみます。前翅後縁と後翅前縁は鉤状に湾曲していて、飛翔する際はこの鉤状部で前後の翅を連結して羽ばたきます。一般に飛翔能力は高く、羽音を立てながらかなりの速度で飛びます。



一方、止まれそうだと判断した場所に手あたり次第に突進する習性があるため、壁や枝にぶつかりながら飛翔することもあります。

セミは、卵→幼虫→成虫という不完全変態をする昆虫です。

オス成虫の腹腔内には音を出す発音筋と発音膜、音を大きくする共鳴室、腹弁などの発音器官が発達し、鳴いてメスを呼びます。発音筋は秒間2万回振動して発音を実現するとされ、また、外敵に捕獲されたときにも鳴きます。気管の拡大によって生じた共鳴室は腹部の大きな

空間を占めています。

セミを捕えるのに失敗すると、逃げざまに「尿」のような排泄物をかけられることが多いと思います。これは飛び立つときに体を軽くするためという説や膀胱が弱いからという説もあり、体内の余剰水分や消化吸収中の樹液を外に排泄しているだけで、外敵を狙っているわけではありません。そのため、飛び立つときだけでなく樹液を吸っている最中にもよく排泄します。

長年にわたり成虫として生きる期間は1・2週間ほどといわれていたが、2000年代頃から研究が進み、1か月程度と考えられるようになってきています。1・2週間ほどという俗説が広まった原因として、成虫の飼育が難しく、飼育を試みてもすぐ死んでしまうことがあげられています。

エゾハルゼミ（蝦夷春蟬、蝦夷春蜚、学名：*Yezoterpnosia nigricosta* (Motschulsky, 1866)）は、カメムシ目（半翅目）セミ科ハルゼミ属に分類されるセミの一種。特徴的な鳴き声を持つ小型のセミで、ブナ林などの落葉広葉樹林に生息します。

形態

体長はオス 31-33mm、メス 22-24mm ほど。体色は全体的に黄褐色だが、頭部・胸部はやや緑色を帯び、黒い線や斑紋の模様がある。同属のハルゼミより色が淡く、ハルゼミというよりむしろヒグラシを小さくしたような外見をしています。（形態は、裏面でご確認ください。）

では、北海道ではどんなセミが見られるでしょう？

札幌市で見られるセミ

—成虫と抜け殻—

1 cm



出典：札幌市セミ調査第2次分布調査 2019～2020 年実施レポート（札幌市博物館活動センター、2021 年発行） 参考：Wikipedia 編集責任者 小林英世
北海道では上図のセミが見られます。これから夏に向かい色々なセミを見つけてください。

今後の観察会等の予定

※ボラレン事務局 090-9756-2089 藤吉

6/8 (日)10:00～12:00「恵庭公園自然観察会」同公園中央駐車場 当日会場へ※親子は要予約↑
6/15(日)10:00～12:00「苫小牧、北大研究林自然観察会」同研究林駐車場 当日会場へ
6/21(土)～22(日)「ボランティアリーダー育成研修会」第1回 自然ふれあい交流館 事前申込〆切済
6/26(木)10:00～12:15「オオハンゴンソウ防除」自然ふれあい交流館前庭集合解散 当日会場へ